

これでいいのか日本

オーストラリアもカリスマもない政治家

理念と哲学を持った人を選ぼう



シンポジウム
出席者
(順不同)

加藤秀樹
一柳良雄
小池一夫
大中吉一

構想日本代表
(株)一柳アソシエイツ社長
マンガ家
月刊公論主幹
感臨倶楽部代表

ビジョンを語れ
混迷する政治に喝

加藤 政治の混迷ぶりはひどいですね。混迷というよりどん底だと思えます。政治家はもちろんです。こうした政治家を生み出した有権者にも責任があります。有権者個人もそうですが企業、メディアも責任があります。

大中 かつて手島氏が、『日本はこれでいいのか』と毎日考えておられたというんですね。10年後には世界に誇れる、日本は素晴らしい、といわれる国にしたい、そのためにどうするかを真剣に考えていたそうです。

一柳 この国の将来の姿・かたちですね。持続可能なビジョンづくりが必要でしょう。まずそれには若者が元気で、志や夢をもてるにはどうすればいいか。今、若い人を集めて塾をやっていますが、世界に翔ける

日本にはどうすればいいかを考えてもらっているんです。かつて田中角栄総理の『日本列島改造論』の資料集めをしたのですが、その中で、日本中の家族が平和で、青年は夢と希望が持てる国——を問いかけていました。明確に国家像を語っているんですね。現在の政治家をはじめ若い人は長期の展望について全く議論されていない。残念なことです。いまの民主党政権はアマチュア政治家の集合体ですから経営学的にみても長期展望がない。政治家はもつと官僚を上手に使いこなせといたいですね。

大きなビジョンを持ち、なおかつ謙虚さも必要です。政権交代は国民の試行錯誤だったというが、試行錯誤では困る。選んだ国民の責任は大きい。大切なのは20年後30年後の国家像をいかに語れるかです。それが出来ない政治家なら、おやめなさいといたい。有権者が出来ることは資質のよい人を応援することですね。広く全体を観る目を持ち、がんばる人に政界に出してもらおう。日本の将来のために有権者も真剣に考えて欲しいものです。

加藤 問題なのは、いま適当に幸せなのだから——と今後のことを考えようとしな。政治家も、メディアも

その風潮に流されている感じですね。

小池 いま、日本はアニメ、まんがの分野で評価されています。チュニジアに端を発した革命はマンガの主人公だったのです。いま、私のところ

に370人の若者が集まっています。確かにポケモンやピカチュウは人気で、全鉄工業に匹敵する経済効果を生んでいるんです。ヒットするアニメには、主人公と悪役がいるんです。主人公はオーラを、悪役はカリスマ性に富んでいる。オーラ対カリスマですね。

いまの政治家にはオーラのある人はいないし、さりとて邪悪さ恐怖感を抱かせる悪役も不在。そこには変化も闘いもない。変化は若い人をしてびれさせるのだが、いまはそれが無い。無関心層が増大するばかりです。

大中 民主党は政権交代前、国民にうれしいご馳走を並べた。だが、マニフェストを実現するには22兆円が必要。うれしいものを並べても、賞味期限切れや予算不足ばかり。菅さん、もうお辞めなさいーが支持率に現れていますね。

人の痛みが分かる政治家を 正論ばかりで実行性欠如

加藤 先刻のオーラとカリスマです

が、そういえばいまの政治家にはピジョンというかオーラというか、何が欠けている気がします。どうしたらいいのかですね。

一柳 厳しさや苦しみを経験、人の痛みが分かる人材が出てこない。現場を体験してトップに立った人は、どたん場、正念場が分かる。正論だけ吐いていて何もしない政治家ばかりではだめ。言ったことは必ず守るーこれらがオーラの背景になっているんだと思うんです。

加藤 総論、正論は言うが、実行できないんですね。先の総理も盛んに友「愛」をキャッチフレーズに多用したが、では友愛とは何か。具体的な行動が伴わない。美しい日本ーといっても、抽象的で何を美しくしたいのか分からない。キャッチコピーと現実、中身へのつながりがない。頭だけの世界なんです。それがいまの政治の世界になっている。そんな政治家を選んでしまった我々はどうしたらいいか。国民一人ひとりの心がけてですね。

一柳 美しい花を咲かせたいー若い経営者が言うんです。それには、「いたネ、いい土」が必要です。よい土とは国民。政治家を支え、叱咤する。そういう環境づくりが必要です。政

治家に必要なのは「私欲公德」。私欲を捨てて公の徳をーということ。明治維新直前、日本を訪れた外国人が日本は美しく、礼儀正しい国だと驚いていたといいます。今はそれが無い。

大中 選挙でも、出たい人より、出したい人をーですね。世界から愛される日本を構築するためにはまずそこからですね。

時代迷子の日本 過去の延長線上ではだめ

小池 確かにいまの政治家にオーラもカリスマも見当たりません。紀元前シユメール人の哲学者は「常に死を思え」といつているんですね。裏返せば今自分の生きていることを大切に、重く思え、ということ。日本でも武士道、ことに「葉がくれ

武士道」は死と覚えたりーといっているんです。死を思えば何でも出来るし、他人の犠牲にもなれる。マンガの主人公のオーラの条件としてはまず友情を信じる、人の犠牲になれる、です。

加藤 いまの若い世代によく見かけるケースに、企業に入っても自己実現ー自分の実力をだれも認めてくれない、辞めてしまえーが多いんです

ね。あまりにもいろんなことが幸せすぎて、周りが見えてこない。

一柳 「時代迷子」になっているんですね。いままでの延長線上ではだめ。枠を取っ払って考えろーということ

です。
加藤 ルールを守らせることばかりが優先してきた。ですから企業のコンプライアンスだといつても掛け声だけです。

小池 若い世代だけを責められない。自分の意思を言葉で伝えられない環境なんです。顔の見えないメールのやりとりだけの世界に入り込む。言葉がないんですね。

大中 いまの政治家に理念、哲学が見えない。国を思う気持ちは皆あるのかもしれませんが、どうすればいいのかわからないんですね。

一柳 メディアの責任も重大ですね。ネット社会では偽物、本物、ヒボウ、中傷がまかり通る。新聞への批判もあります。まだ選択された情報ーそれ自体問題視する人もいますが、まだ、期待できます。

加藤 それにしてもメディアの現場取材が少ない。政治家にも言えることですが、机上の前にまず現場ですね。そこから真実が見えてくるわけですから。